

# 自律・主体的に課題を解決する力を育む学習の場の創造 ～ コンピテンシー（資質・能力）を重視したスポーツの学習 ～

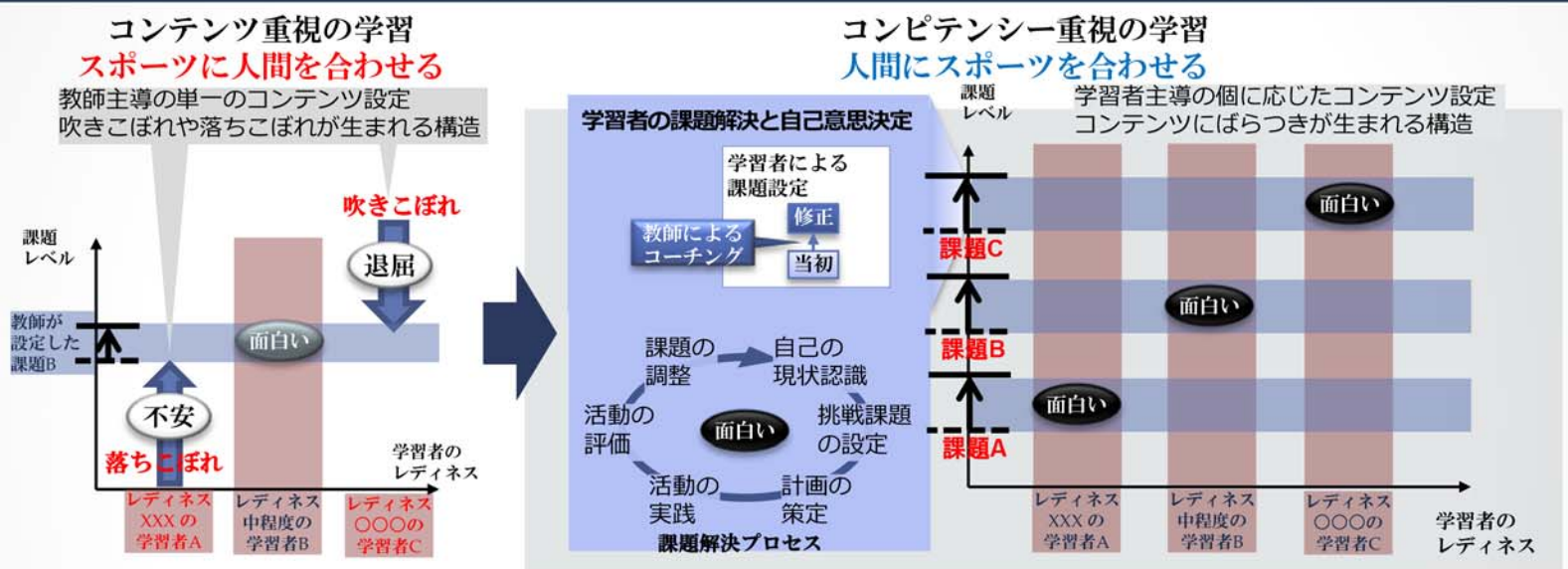
大阪教育大学附属高等学校平野校舎 保健体育科 松田雅彦

キーワード：コンテンツ コンピテンシー 課題解決力 自己意思決定 コミュニケーション力

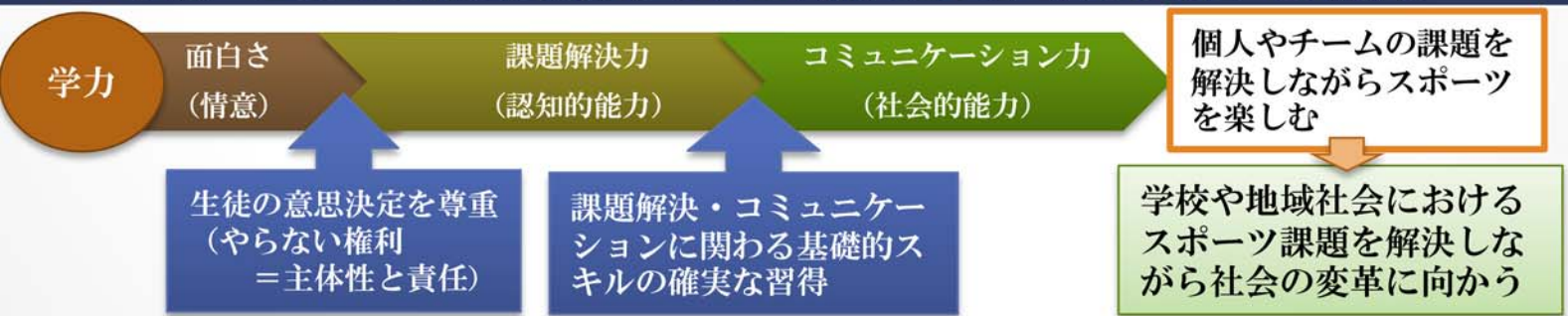
## 共通のコンテンツ（技術等）の学習からスポーツを楽しむ力の学習へ

これまでの体育は身につけるべき共通の内容（技術等）を教師が示し、それを生徒が学習するという構造であった。しかし、これは「落ちこぼれ」と「吹きこぼれ」を必然的に生み出す構造であり、この構造自体が体育嫌いを生み出していた。また、技術や戦術など種目のコンテンツは、学校外でスポーツを楽しむために必要となる力（施設・用具の確保、仲間集め、指導者・プログラムの確保、情報収集等）とは異なるため、生涯に亘ってスポーツを楽しむ社会の創造にはつながらない。これからの体育がめざす人間像は「スポーツを楽しむための課題を解決し続けながら社会を変革していく人間」である。それにはスポーツを楽しみたいという原動力をベースにし、他者と関わりながら課題を解決していく学習の場が必要である。その学習の場は学校の枠を超えたところにある。

## コンテンツ重視からコンピテンシー重視の学習へ（体育科）



## 自律・主体的に課題を解決する力の育成をめざす学習の構造（体育科）



## 教科は必要なのか？ ～探究のための資質・能力を身につけることと教科の関係～

